

## Interesting Rugby のポイント

「ラグビーは単純で自由で楽しい競技」であるのに、一部の好事家の片寄った思いあがりから多くの人達に、「複雑で難しく危険な競技」と誤解を与えてしまっています。一部の愛好家たちの間違った理解からくる言動が原因です。間違った理解の原因は歴史とルール認識の不足によると考えられます。基本的なルール理解が急務ということです。

ルール研究は、第7条 競技方法 MODE OF PLAY からはじめようとおもいますが、ルール研究に入る前に、現代ラグビーの基点である 1971 年以後のルールブックの変遷の大略を予備知識として持っておきましょう。

ラグビーのルールは The History of the Laws の次の言葉から始まります。

In 1855 one writer on football in Scotland, "It was not a bad game; the greast beauty of it was that were no rules."

条文としては、

LAW 13 条 MODE OF PLAY として 1314 に書き起こされています。

1602 年 Hurling と呼ばれた競技の記録に最も古くでできます。

1866 年 Laws of Football as played at Rugby School に規則の原形が見られます。

1939 年 the International board が決定を下す形式もできています。

そして、RFU 創立 100 周年・現代ラグビーの基点と言われる年になるわけです。

1970 年代 LAW 7 MODE OF PLAY

A mach is started by a kick-off, after which any player who is on-side may at any time

- catch or pick up the ball and run with it,
- pass, throw or knock the ball to another player,
- kick or otherwise propel the ball
- tackle, push or shoulder an opponent holding the ball,
- fall on the ball,
- take part in scrummage, ruck, maul or line-out,

provided he does so in accordance with these Laws.

されています。1602 年 Hurling と呼ばれた競技の中の記述があり、1866 年の Laws of Football as played at Rugby School とつづきますが、その中に現在の規則の原形がみられ、1939 The International Board が決定をくだす形で現在の土台ができ、議論と改定が加えられて RFU 100 周年を契機に現代ラグビーの発展が加速されるのです。

1980 年代は内容不変のままに NOTE が加わります。RFU 主導でルールを身近なものにするべく色彩豊かになり、写真もとりにいられます。

1990 年代は How the game played 加わり、グランディングの項が加わが、競技方法が変わったわけではありません。

2000 年代は、ミレニアムから 21 世紀を迎えるに当たって活発に議論され、試合前 BEFORE THE MATCH と試合中 DURING THE MATCH とフィールド内 In the Field of Play に整理し、分かり易くしました。それと IRB 主導がより全面に且つ前面になってきたということです。

競技方法は may できる、してもよいという言葉が使われ肯定的で積極的です。～してはいけない。禁止と罰が前にでますと堅苦しくなり難しく感じられます。

2007 LAW 7 MODE OF PLAY

PLAYING A MACH

A mach is started by a kick off.

After the kick off, any player who is onside may take the ball and run with it.

Any player may throw it or kick it.

Any player may give the ball to another player.

Any player may tackle, hold or push an opponent holding the ball.

Any player may fall on the ball.

Any player may take part in a scrum, ruck, maul or lineout.

Any player may ground the ball in in-gall.

Whatever a player does must be in accordance with the laws of the game.

そして、常識的に、off the side ゲームに参加していない人はプレーしてはいけません。

危険なことはしてはいけません。相手のことを考えて事故防止。

ボールをオープンに展開して楽しみなさい。それだけです。

ラグビーは自由な競技で、10m サークルの規制以外は本能的な競技だと言われます。人間が自然に活動する中で誕生し発展してきた競技です。may 許される活動は単純なもので、整理された範囲は、本質的に不変であって、オンサイドにあるプレーヤーは、誰でも何でもできると

いうものです。第2条ボールを参考に may の意味について考えましょう。

The ball when new shall be oval・・・

Ball may specially treated・・・

The ball, when new, should have a pressure・・・

3条プレーヤーの人数については shall、4条プレーヤーの服装については must と、must not が使われ、8条アドバンテージではレフリーに対し shall not whistle と使い分けています。それぞれ言葉の深さと重みを感じられます。それから規則は単独では成り立っているものでないことは言うまでもないことです。

ラグビーは単純で自由な楽しい競技であるという確認とそれを具現する実行力が求められています。それはラグビー普及発達の要件であり、日本ラグビーがメジャーの仲間入りする方法でもあるのです。簡単な動きから自由にのびのびと running handling game を good, bright, interesting をモットーに日々楽しむことが大切で、プレーヤーの flair 発想を生かすような指導で、基本的でない細かい事を教えすぎない指導が求められています。

IRB が進めている方向を志向し PLAYING CHART の方向を確認しましょう。

We are looking at the game in a new light with the idea of making it simpler and easier to play and referee, and ensure Rugby is understood and enjoyed by the increasing number of spectators that are being attracted to the game.

2007.09.23

西川 義行